

令和2年度 進学指導重点校事業

1 研究主題

入試改革に対応した進路支援の研究

2 研究主題設定の理由

今年度より実施される新入試に対応した教科指導法及び進路支援体制の構築は急務である。特に大学入学共通テスト対策の教科指導は手探りの状態であり、情報の収集及び具体的な指導法の研究を進めなければならない。また主体性評価が求められる中、小論文・面接を課す大学も増えており、対応していかななければならない。
一方、数年後には指導要領の改定等もあり、今後も入試の変更が続くと考えられる。変化に動じない強い志望の早期確立が大切である。

3 研究計画

- (1) 「外部講師による小論文講座」
対 象：3年生（希望者）
時期等：夏季補習期間
ねらい：担任や割り当てられた教員に任されていた志望理由書や小論文指導の基礎指導を外部の講師に行ってもらうことで、その後の指導の深化を図る。
- (2) 「大学出前講座」
対 象：全学年（希望者）
時期等：夏季休暇中及び放課後等
ねらい：名古屋大学等の先生を招いて出前授業（年に4～5回程度）実施し、大学での学びに触れることで、進路意識の高揚を図る。
- (3) 「学部系統別進学説明会」
対 象：1年生（全員）
時期等：授業日（LHR等）
ねらい：大学教員による系統別進学説明会を行い大学に興味関心を持つ機会とし、早期の志望校決定に繋げる。
- (4) 「社会人OBによるキャリアガイダンス」
対 象：全学年（希望者）
時期等：放課後
ねらい：様々な職業に就いている本校OBの講演を通して、自己の生き方と職業の世界への知見を広め、主体的な進路選択の一助とする。
- (5) 教員研修
外部業者主催の大学入試問題研究等の講座を受講し、新入試に向けた指導法を学ぶ。
- (6) 大学生OBの活用
大学見学の際のサポート、受験体験講話など

4 研究組織

